令和三年度　全国学力・学習状況調査　振り返り表（中学校国語）　表面

中学校　第三学年　　組　　番　名前

自己採点をして　　に「○・×」を書いて、振り返りましょう。

1

一

2

二

3

三

（正答例）

A　本田さんが、次②の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山③の質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからだ。

B　③石川さんは山下さんの質問にまだ答えていないので、石川さんが、その②質問に対する答えとなる地域の方との清掃活動の手順について発言すればよい。

C　山下さんが、②自分の質問に先に答えてほしいということについて発言すればよいと考えます。なぜなら、石③川さんがまだ山下さんの質問に答えていないのに、大野さんが山下さんに次の質問をしたからです。

（正答の条件）次の条件を満たして解答している。

①　本田さん、石川さん、山下さんの中からいずれか一人を選んで、その記号を塗りつぶしている。

②　――線②のように、【話し合いの一部】の①から⑥までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいのかを書いている。

③　――線③のように、②のように考えた理由を山下さんの発言⑤への回答が必要であることに触れて書いている。

解答のポイント

話合いの際には、司会の指示や、相手の話を受けて発言するようにしましょう。ここでは「今日は、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。」という司会の本田さんの言葉を踏まえて発言することが大切です。

条件①

条件②

条件③

2

一

A　4

B　1

二

（正答例）

・1①段落で自分の意見を述べ、4段落で繰り返し述べるという工夫があり、伝えたいことが明確になっていてよいと思う。

・3①段落で自分の意見に対して予想される反論について述べることで、4段落の意見に説得力をもたせている。

・2①段落で具体例について述べることで、1段落や4段落の意見が分かりやすくなっていると思います。

・1①段落で伝えたいことを述べ、2段落でその根拠となる具体例を示し、3①段落で予想される反対の考えを示し、4①段落でもう一度伝えたいことを述べています。

（正答の条件）次の条件を満たして解答している。

①　――線①のように【意見文の下書き】の構成にどのような工夫があるのかが分かるように書いている。

②複数の段落に着目して、1、2などの段落の番号を示しながら書いている。

条件①

条件②

3

一

1

二

A

1

B

2

三

（正答）
「（彼は）喟然として大息していう（。）」や「すこぶるおこったようす」、「（すこぶるおこったようすで、）背中の毛を逆だてている」のように解答しているもの

四

（正答例）
・「①はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、②「吾輩」は「黒」の機嫌をとるような接し方をしていることが分かる。③私は、このような「吾輩」の接し方はとても賢いと思う。
・「①腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と書かれていて、②黒に敬意をもって接していることが分かります。③相手の悪い面だけでなく、よい面にも目を向けることは大切なことだと思います。
・「①元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」と②相手を見下すような接し方をしていて、③あまりよい気持ちがしない。

（正答の条件）次の条件を満たして解答している。

① ――線①のように、【文章の一部】から「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用して書いている。

② ――線②のように、①で引用した表現から、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書いている。

③ ――線③のように、②のような「吾輩」の接し方について、自分の考えを具体的に書いている。

条件①

条件②

条件③

4

一

①

の　ばして

②

しようさい

二

4

三

行く

例　うかがう（伺う）
まいる（参る）
お伺いする　お訪ねする

敬語の種類

2

四
（正答例）

○　（なお、）事前に教えていただきたいことがあります。②当日の持ち物と服装について何か気を付けることはありま①すか。また、体験している様子を写真撮影することはできますか。

今回の学習を通して多くのことを学びたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○　（なお、）事前に確かめておきたいことは以下の点です。②

・持ち物と服装について①
・写真撮影の許可について①

（正答の条件）

① ――― 線のように、〈確認事項〉にある内容を全て含めて書いている。

②「なお、」に続けて文意が通じるように書いている。

③相手に失礼のないように、敬語等を用いるなど、適切な言葉遣いで書いている。

解答のポイント

手紙やメールを書くときは、気持ちや用件が的確に伝わるように、表現を工夫し、敬語を適切に用いることが大切です。

条件①

条件②

条件③